

## アフターサービスについて

- 1 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
- 2 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、7年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店または、キヤノンサービスセンターにお問い合わせください。
- 3 修理品をご送付の場合は、見本のフィルムを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

## キヤノン株式会社

キヤノン販売株式会社 カメラ販売事業部  
〒108 東京都港区三田3-12-15 (東急三田ビル8F)

カメラ相談室 (製品取り扱い方法ご相談窓口)  
東京 〒108 東京都港区三田3-12-15 (東急三田ビル8F)

☎(03) 3455-9353

### サービスセンター (修理サービスご相談窓口)

札幌	〒060 札幌市北区北七条西1-1-2 (SE山京ビル1F)	☎(011) 728-0665
仙台	〒980 仙台市青葉区一番町1-1-30 (やまと生命ビル2F)	☎(022) 266-9851
新潟	〒950 新潟市紫竹山1-10-26	☎(025) 246-8765
大宮	〒331 大宮市桜木町4-247 (OSビル1F)	☎(048) 649-1450
千葉	〒260 千葉市中央区末広2-13-2	☎(043) 268-5261
銀座	〒104 東京都中央区銀座5-9-9	☎(03) 3573-7834
新宿	〒163-02 東京都新宿区西新宿2-6-1 (住友三角ビル地下1F)	☎(03) 3348-4725
横浜	〒220 横浜市西区北幸2-6-26 (HI横浜ビル2F)	☎(045) 312-0211
静岡	〒420 静岡市常盤町2-6-8 (トイカビル3F)	☎(054) 253-9010
名古屋	〒461 名古屋市東区東桜2-2-1 (高岳パークビル1F)	☎(052) 939-1830
金沢	〒921 金沢市玉鉾2-266	☎(0762) 91-8710
京都	〒604 京都市中京区烏丸通二条下ル秋野の町513 (京都第一生命泉屋ビル2F)	☎(075) 255-5953
梅田	〒530 大阪市北区中崎西2-4-12 (梅田センタービル別館)	☎(06) 373-8181
神戸	〒651 神戸市中央区雲井通り4-2-2 (神戸いすゞリクルートビル8F)	☎(078) 291-0535
岡山	〒700 岡山市柳町2-6-25 (朝日生命岡山柳町ビル3F)	☎(086) 221-8678
広島	〒730 広島市中区大手町3-7-5 (広島パークビル1F)	☎(082) 240-6712
高松	〒760 高松市紺屋町4-10 (鹿島紺屋町ビル1F)	☎(0878) 23-4681
福岡	〒812 福岡市博多区美野島1-2-1 (キヤノン販売福岡ビル3F)	☎(092) 411-4173
沖縄	〒900 那覇市松山1-1-19 (安田生命那覇ビル8F)	☎(098) 866-7933

### カメラ技術センター (修理サービスご相談窓口)

東京	〒140 東京都品川区東品川1-2-5 (東信天王洲ビル5F)	☎(03) 3450-2731
大阪	〒540 大阪市中央区森ノ宮中央2-5-3 (大阪研修センター1F)	☎(06) 941-1076

### 営業所

大分	〒870 大分市城崎町1-3-31 (富士火災大分ビル)	☎(0975) 37-4117
----	------------------------------	-----------------

### 休業のご案内

新宿 (第3木曜日、日曜日、祝日) その他 (土・日曜日、祝日)

# Canon

# Autoboy SE



はじめに

基本編

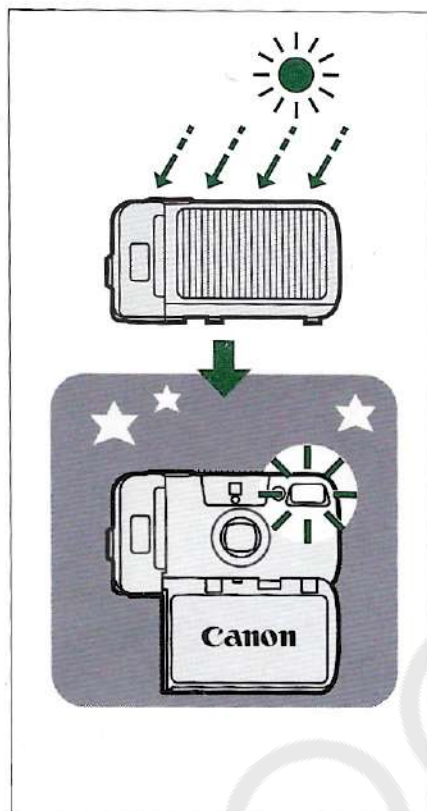
応用編

資料編



キヤノン製品のお買い上げありがとうございます。  
カメラをご使用の前にこの使用説明書をよくお読みになり、カメラを手に取りながら操作に慣れたうえで、正しくお使いください。

## こんな特徴があります



### 電池交換のいらない ソーラーシステム

ソーラーパネルにより、つねに内蔵電池に電気が充電されるので電池交換の必要がありません。また、夜間や暗い所でも安心して使用できます。

### 中抜けしにくいAiAF

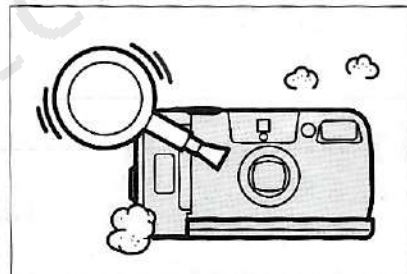
AiAF(オートフォーカス)機能が写したいものを自動的に判別してピントを合せるので気軽に撮影することができます。



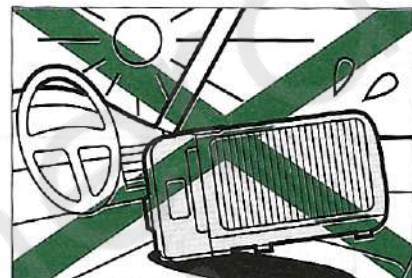
## 取り扱い上のご注意



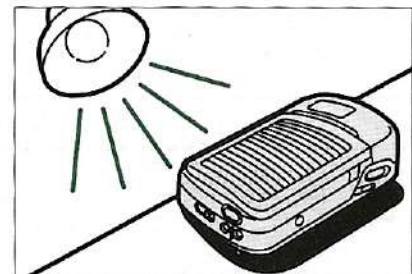
- このカメラは防水構造になっていませんので、雨天下や水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。
- 水滴がついたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。



- レンズやフィルム室内にゴミがついているときは、市販のブローブラシで吹き飛ばすだけにしてください。
- ソーラーパネルおよびレンズは有機溶剤を含むクリーナーなどでは絶対にふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。



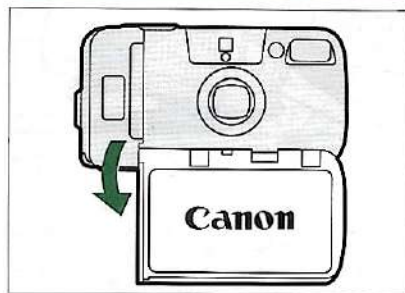
- 直射日光が当たる車の中は予想以上に高温になります。このようなところにカメラを放置しないでください。カメラの故障の原因となることがあります。
- カメラには高電圧回路が内蔵されています。危険ですので絶対に分解しないでください。



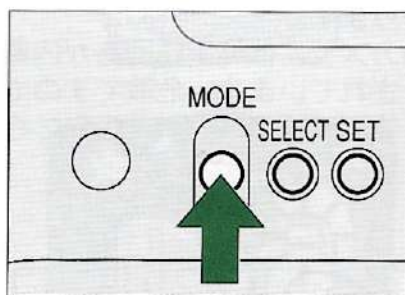
- 高熱を発生する電球などで充電するときは、熱によるボディの変形を防ぐため、十分に距離をおいてください。

# ご使用になる前に

ご使用の前に、まず、日付/時刻の設定をしてください。



- ① ソーラーパネルを開く。**  
 ⇒ レンズがセットされ、  
 日付が表示されます。



- ② 日付/時刻をセットする。**  
 →18ページ



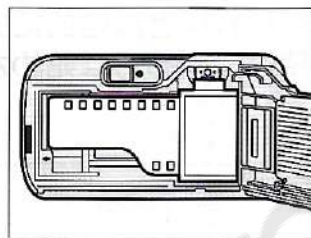
● 保管中も、充電されるように、風通しがよく明るい所に、ケースに入れずにソーラーパネルを閉じたまま保管してください。



● このカメラは、フィルム数本の撮影ができるように内蔵バッテリーを充電し、さらに電源遮断スイッチで自然放電を防止して出荷しています。電源遮断スイッチはソーラーパネルを最初に開いた時点で自動的に解除されますので通常は一切触らないように注意してください。誤って操作すると、設定してある日付/時刻が消えたり、充電できない場合があります。

# 操作早わかり

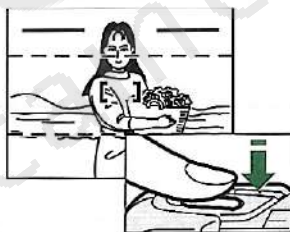
詳しくは説明のページをご覧ください。



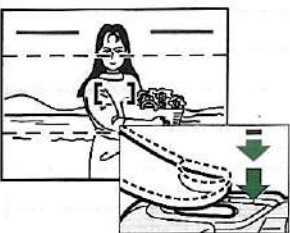
- ① フィルムを入れる。**  
 →24ページ
- 日付/時刻を写し込むときは  
 →18ページ
  - パノラマ写真を撮るときは  
 →32ページ



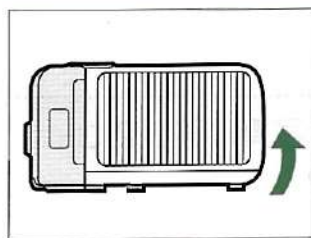
- ② ソーラーパネルを開く。**



- ③ AFフレームを合わせ  
 シャッターボタンを  
 軽く押す。** →22ページ
- 緑ランプが点灯したことを  
 確かめます。 →27ページ



- ④ そのままさらに  
 シャッターボタンを  
 押す。** →22ページ



- ⑤ ソーラーパネルを閉じ、  
 充電する。**  
 →20ページ・14ページ

# 目次

## ●本書の構成

この使用説明書は、基本編、応用編、資料編と段階的に分類してあります。初めてカメラをお使いになる方は始めから順にお読みください。

### ■本文中のマークについて



故障などカメラに不都合が生じる恐れのある注意事項が書かれています。



カメラを操作するうえで知っておいていただきたい事項が書かれています。



カメラを操作する際あるいは撮影時のヒントが書かれています。

### はじめに

こんな特徴があります	2
取り扱い上のご注意	3
ご使用になる前に	4
操作早わかり	5
目次	6
各部の名称	8
充電量を確認する	11
充電量を見る	
充電のしかた	
充電時間の目安	
日付／時刻をセットする	18
日付／時刻を確認する、写真に写し込む	
日付／時刻をセットする	

### 基本編

カメラに慣れよう	20
電源を入れる、切る	
ファインダーをのぞく	
構図を決めて、シャッターをきる	
フィルムを入れる	24
撮影する（全自動撮影）	26
赤目緩和撮影機能について	
撮影したフィルムを取り出す	29

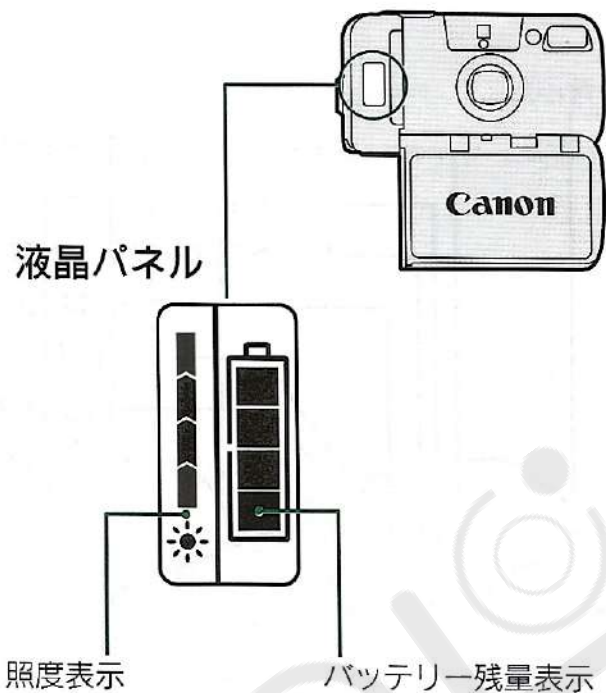
### 応用編

フォーカスロック撮影	30
(画面の端にピントを合わせる)	
AiAFについて	
パノラマモード撮影	32
(パノラマ写真を撮影する)	
パノラマプリントについて	
セルフタイマー撮影	34
ストロボON撮影	36
(明るい場所でストロボを発光させる)	
スローシンクロ撮影	37
(夜景を背景にして人物を撮影する)	
ストロボOFF撮影	38
(暗い場所でもストロボを発光させない)	

### 資料編

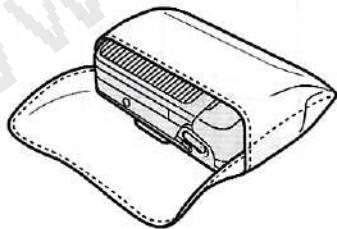
Q&A	39
こんなときは	40
主な仕様	42
アフターサービスについて	裏表紙





### カメラクロスについて

このカメラは、持ち歩くときにも充電されるように従来のカメラケースには入れないでください。スーツケースやカメラバックなどに入れるときは、傷を防止するために付属のカメラクロスをお使いください。カメラクロスは傷の防止以外にソーラパネルやレンズの汚れも拭きとることもできます。

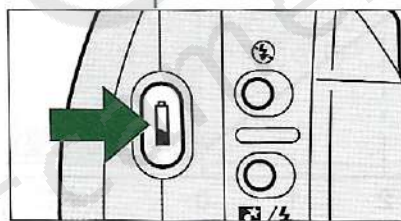


このカメラは光を電気にかえ内蔵バッテリーに蓄えて使用します。いつでもお使いいただけるように、常にフル充電の状態にしておくことをお勧めします。

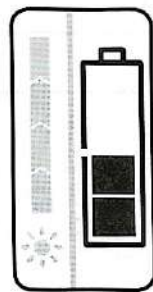
※内蔵バッテリーには24枚撮りフィルムで約2本以上（ストロボ50%使用時）の撮影できる電気を充電して出荷されていますが、放電して残量が少なくなっていることもあります。

はじめに

### 充電量を見る



- 1 バッテリー&照度  
チェックボタンを押す。



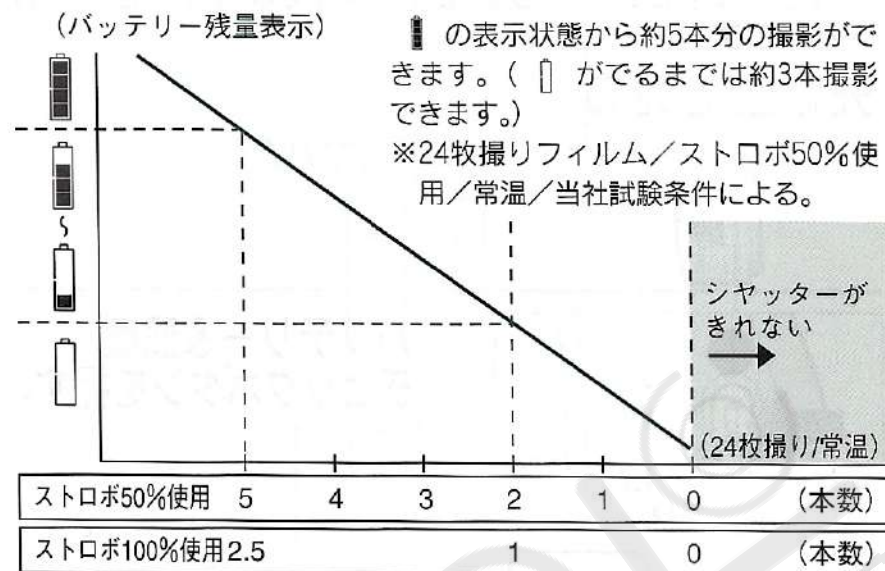
→ 液晶パネルに電池の残量（バッテリー残量表示）が表示されます。



● カメラが作動中（巻き上げ、巻き戻し途中など）および作動直後（電源を入れた直後など）に、バッテリー&照度チェックボタンを押しても残量表示は出ません。作動後しばらくたってからバッテリーチェックをしてください。

## バッテリー残量表示と撮影が可能なフィルム本数

バッテリー残量表示で撮影が可能なフィルム本数をおよそ確認できます。撮影予定のフィルム本数より多く撮影できるように充電してください。



●このカメラの内蔵バッテリーの特性上、次の操作をした後にバッテリーチェックをすると、バッテリー残量表示に誤表示(過小表示)が出ることがあります。しかし、カメラに支障はなく正常に撮影できます。しばらく時間をおいてから再度バッテリーチェックをしてください。

- ・連続してストロボ撮影をした直後
- ・フィルムを巻き戻した直後
- ・ソーラーパネルを開けた直後
- ・撮影した(シャッターボタンを押した)直後 など

- 低温の場所では、撮影可能本数が少なくなります。
- フィルムを入れずに空撮りしたり、ストロボを発光させたりすると撮影可能本数が少なくなります。

## 充電量を確認する

### バッテリー残量表示の意味

	バッテリーの容量は十分です。
	このカメラは、放置状態でも常に充電されますので窓際など明るいところに置いてください。
	4回点滅後点灯
	4回点滅後点灯
表示なし	充電してください。

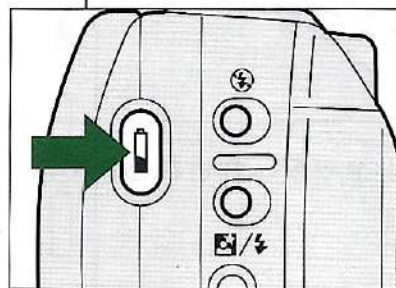
バッテリー残量表示にかかわらずシャッターがぎれるうちは、カメラは正常な作動をしています。



●バッテリー残量表示が の場合でも、充電を続けるとさらに撮影可能本数は増えます。

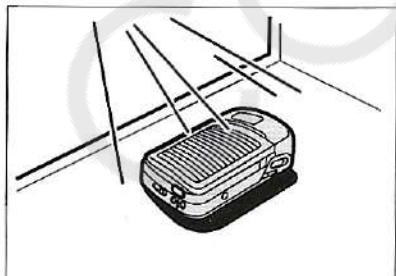
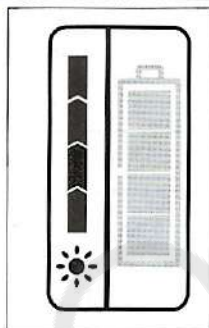
## 充電のしかた

ソーラーパネルに強い光が当たると、照度表示が多く点灯し、短時間で充電できます。明るい場所で充電してください。  
→16ページ



- ① バッテリー&照度チェックボタンを押しながら照度表示が多く点灯する場所を探す。

⇒液晶パネルにバッテリー残量表示が表示されたあと照度表示が出ます。



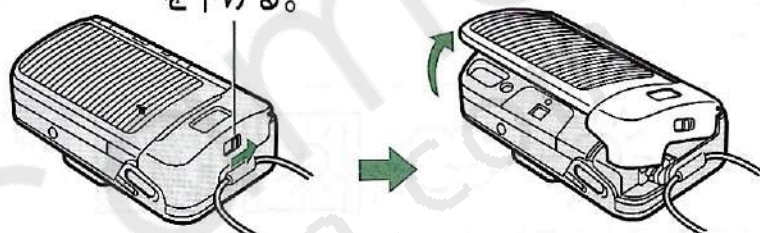
- ② 充電する。  
●パネル面を上に向けてカメラを置いてください。

## 充電量を確認する。



- 窓際などで充電するとき、ソーラーパネルに角度を付けてより明るい方に向けて置くことができます。  
(ティルト機構)

ソーラティルトノブを下げる。



- 高熱を発生する電球や火などに近づけて充電すると故障の原因になります。
- 直射日光が当たる車の中は、高温になりますので、放置しないでください。
- 屋外で充電するときは、雨や水しぶきがかからない場所を選んでください。また、水平で安定した場所に置いてください。
- 電子レンジやこたつには絶対入れないでください。故障の原因となります。
- ティルト機構の角度は約30°です。グリップカバー部はそれ以上無理にこじ開けないでください。
- ソーラーパネルを閉じた状態またはティルト機構を使って充電してください。ソーラーパネルをティルト状態よりさらに開けて充電すると内蔵バッテリーが早く消耗する場合があります。

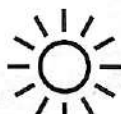









- ソーラーパネルが光を受けている状態であれば持ち歩きながら充電できます。
- 照度表示は、バッテリー残量表示がでてから表示されます。照度表示がでるまでバッテリー&照度チェックボタンを押し続けてください。ただし、明るさが十分でない場所では、照度表示が表示されません。



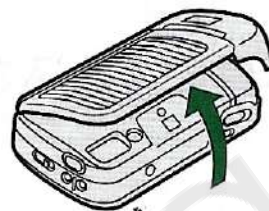
## 充電時間の目安

天候や充電の場所で充電時間が異なってきます。照度表示で光の強さを確かめたうえで、充電時間の目安にしてください。

光	屋外		屋内		目安
					
照度表示					表示なし
24枚撮りフィルム 1本分の充電時間	2時間	5時間	20時間	120時間	充電できません
36枚撮りフィルム 1本分の充電時間	3時間	8時間	30時間	180時間	
バッテリー表示の目盛 1つ分の充電時間	2時間	5時間	20時間	120時間	

(数値は全て定量光量比による当社実測値。)

## ソーラパネルの放熱機能について



- 太陽熱でカメラ内部が高温になるとソーラーパネルが自動的に開いて、内部の熱を放熱します。
- ソーラーパネルを閉じるときは、カメラの表面温度が常温に下がったことを確認して、手で閉じてください。放熱が十分されていないと閉じることができません。

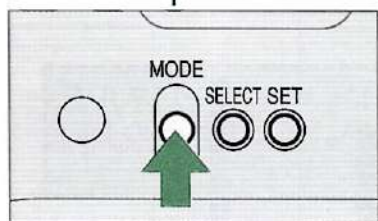
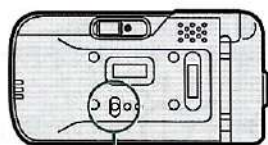


● 放熱機能が作動するように、ソーラーパネルを上面にして置いてください。またカメラの上に物をのせないでください。

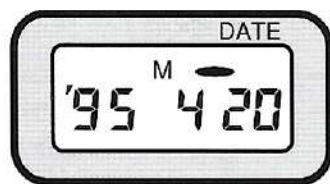
# 日付／時刻をセットする

オートカレンダーが内蔵され、写真に日付や時刻を表示することができます。

## 日付／時刻を確認する、写真に写し込む



**モードボタンを押す。**  
→ 押すたびに表示が変わります。



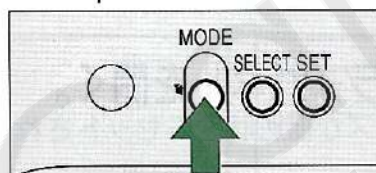
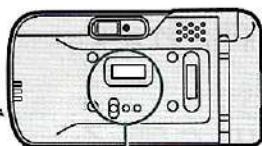
● いずれかを選んで撮影すると写真の右下に写し込むことができます。

● パノラマモードでは、日付／時刻の写し込みはできません。

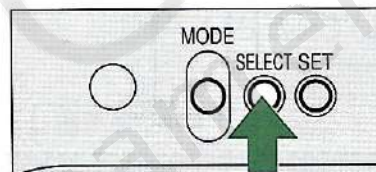
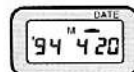
## 日付／時刻をセットする

一度セットした日付／時刻は普通の使い方をしていれば改めてセットをする必要はありません。海外旅行などで日付／時刻を修正するときはセットし直してください。

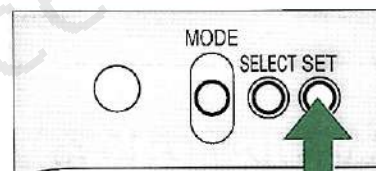
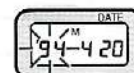
はじめに



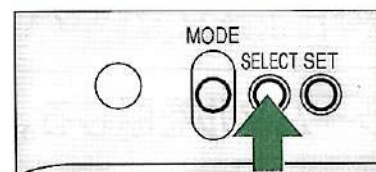
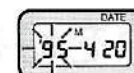
**① モードボタンを押す。**  
● 修正する日付（時刻）を表示させます。



**② セレクトボタンを押す。**  
● 修正する数字を点滅させます。



**③ セットボタンを押す。**  
● 正しい数字をセットします。



**④ すべての数字が点灯するまで、セレクトボタンを押す。**



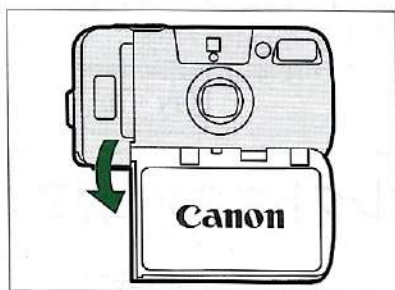
- 数値セットボタンは1回押すと1つ進み、押し続けていると連続早送りになります。
- 内蔵バッテリーの充電量がなくなると日付／時刻が消えてしまいます。そのときは、充電したあとセットし直してください。

# カメラに慣れよう

## 電源を入れる、切る

ソーラーパネルを開閉すると、電源がON、OFFされます。

## 電源を入れる（ソーラーパネルを開く）



### ソーラーパネルを開く。

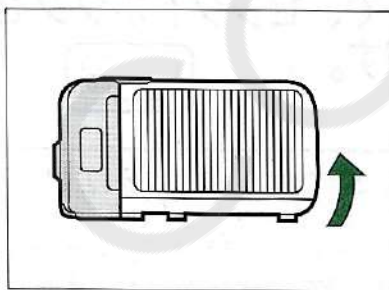
- ➔ レンズが撮影状態にセットされます。
- ソーラーパネルは、いっぱいまで開いてください。



● レンズがセットされないときは、内蔵バッテリーが充電されているかを確認してください。（→11ページ）

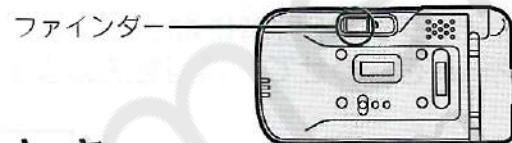
## 電源を切る（ソーラーパネルを閉じる）

レンズやストロボを保護するため、また、充電するために、撮影が終わったらソーラーパネルは必ず閉じてください。

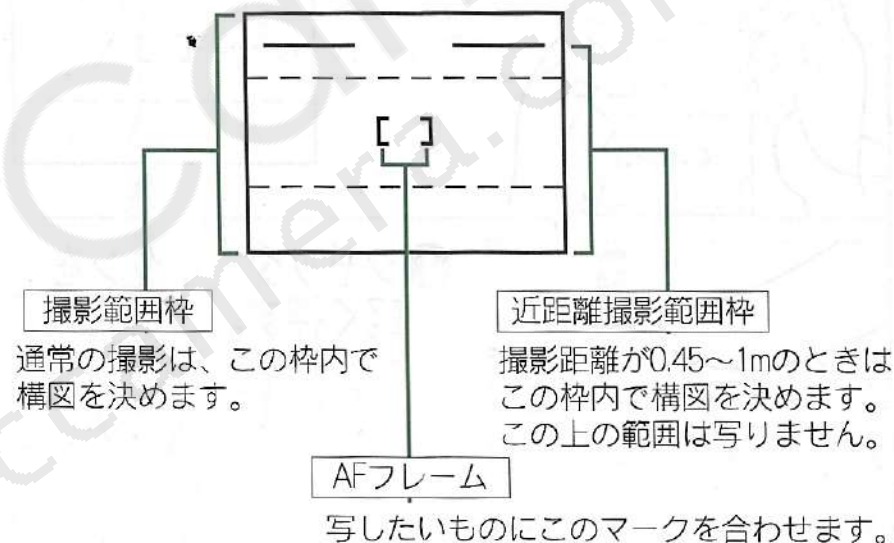


### ソーラーパネルを閉じる。

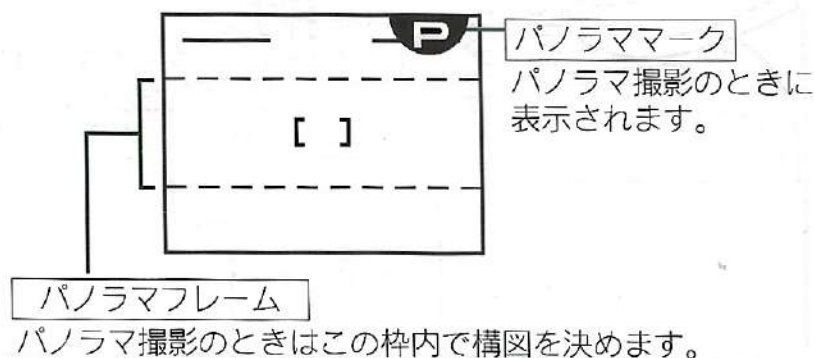
## ファインダーをのぞく



## 標準撮影のとき

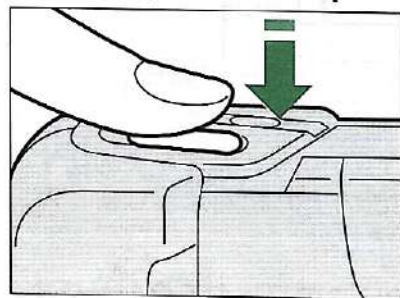
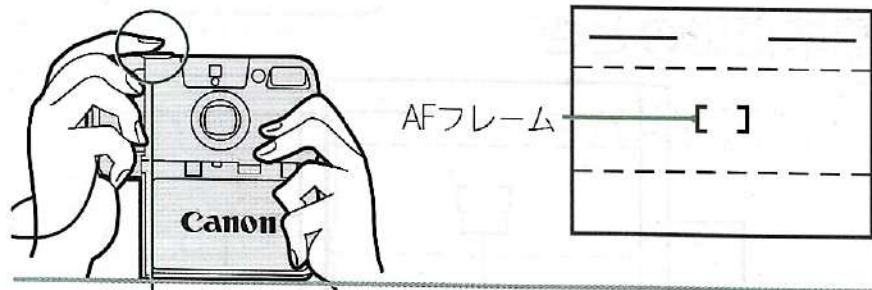


## パノラマ撮影のとき（→28ページ）



## 構図を決めて、シャッターをきる

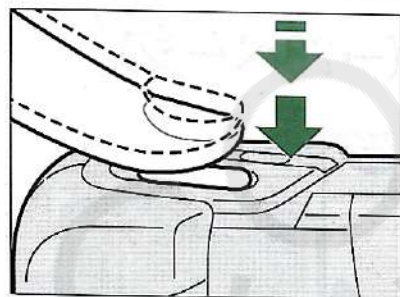
シャッターボタンは2段階になっています。写したいものにAFフレームを合わせて、構図を決めます。



**①** シャッターボタンを軽く押す。

→ピントが合うと緑ランプが点灯します。

→27ページ



**②** そのままさらにシャッターボタンを押す。

●シャッターボタンは静かに押してください。

→シャッターがきれます。

## カメラの構え方

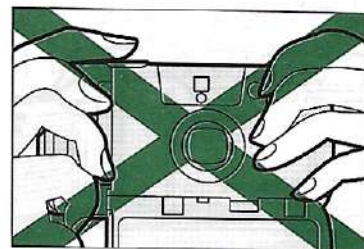
シャープな写真を撮るために、カメラが動かないようにしっかり構えて撮影します。



- 両手でカメラを持ちます。
- ひじを体に軽くつけます。
- カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。



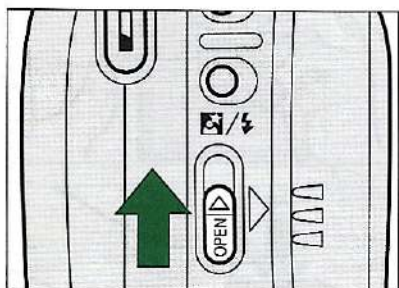
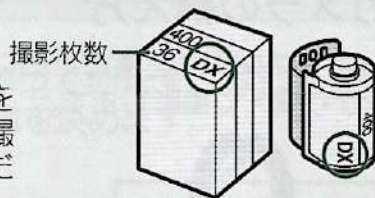
- カメラを構えるときは、レンズ、AF投光部、AF受光部、AE受光部ストロボなどに髪や指がかからないように注意してください。



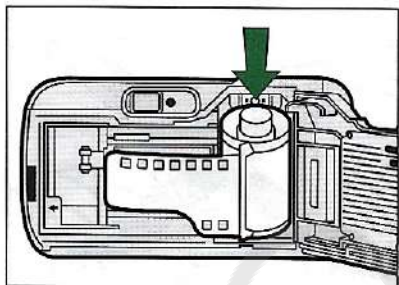
# フィルムを入れる

## 準備

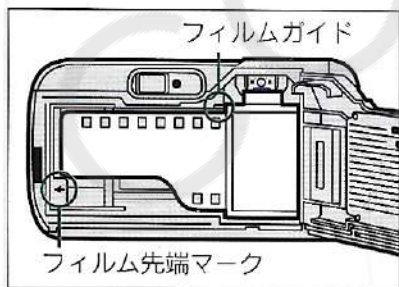
- DXマークのついたフィルムを用意してください。また、撮影できる枚数を確認してください。



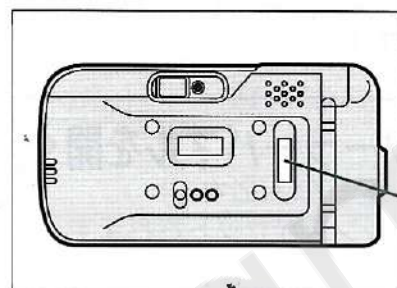
- 1 背ぶた開閉ノブを上げる。  
→背ぶたが開きます。



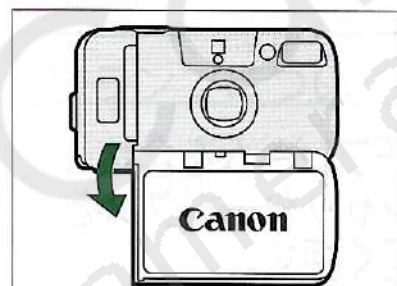
- 2 フィルムを入れる。



- 3 マークの位置までフィルムを引き出す。  
●フィルムがたるまないように引き出します。



- 4 背ぶたを閉じる。



- 5 ソーラーパネルを開ける。  
→フィルムが巻かれます。



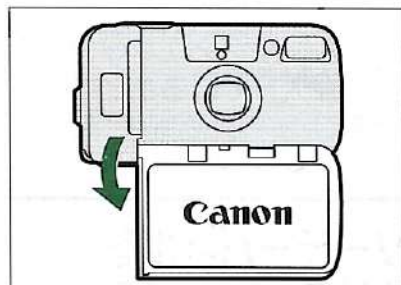
- 6 フィルムカウンターに「1」が表示される。



- フィルムカウンターに「1」が出ないとき（または「S」のままのとき）はフィルムが正しく送られていないので、シャッターがきけません。もう一度入れ直してください。
- 使用するフィルムはフィルム感度ISO400をおすすめします。

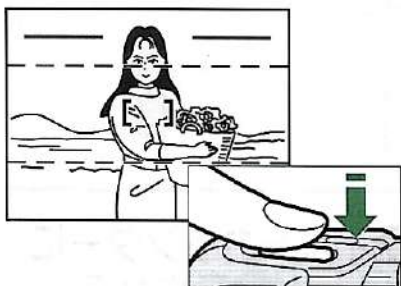
# 撮影する（全自動撮影）

中抜けしにくいAiAF機能ですから、中央部から写したいものがずれなくてもピントが合いやすくなっています。



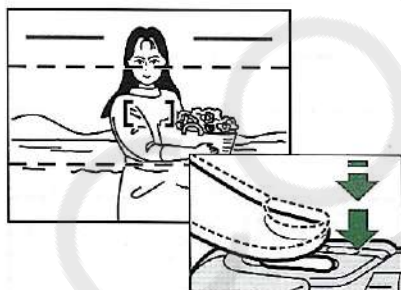
## ① ソーラーパネルを開く。

（電源をONにする）  
→ レンズがセットされます。



## ② AFフレームを合せ シャッターボタンを 軽く押す。

● 緑ランプが点灯したことを  
確かめます。  
→ 暗い所では、赤目緩和ラン  
プが点灯します。そのまま  
約1秒間止めてください。  
→ 28ページ



## ③ そのままさらに シャッターボタンを 押す。

→ 暗い所ではストロボが自動  
的に発光します。

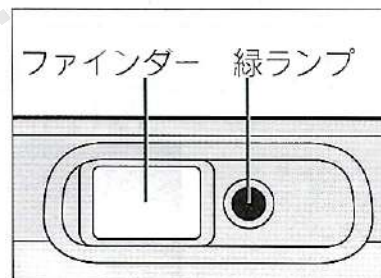
## ストロボ光の届く範囲

フィルム感度	距離範囲
ISO 100	0.45～3.2m
ISO 200	0.45～4.4m
ISO 400	0.45～6.4m

（カラープリント用フィルム使用時）

## 緑ランプについて

シャッターボタンを軽く押し  
たときランプの点灯や点滅で  
撮影の準備を知らせます。



点灯 : ピント合わせ完了（撮影準備完了）  
遅い点滅（4回/秒） : 近距離警告※1  
速い点滅（16回/秒） : 手ぶれ警告※2（ストロボON、OFF  
モードでスローシャッター時）



※1 ● 近距離警告が出たら、写したいものから  
0.45m以上離れてシャッターボタンを押し直  
してください。

※2 ● 手ぶれ警告が出たら、三脚などの使用をお  
すすめします。

## 撮影する (全自動撮影)

## 赤目緩和撮影機能について

暗い場所で人物をストロボ撮影すると、目が赤く輝いて写ることがあります。これを赤目現象といい、ストロボの光が目の網膜に反射して起こります。

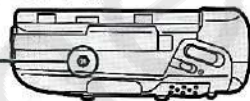
赤目現象の出やすい状況になるとシャッターを軽く押ししている間、赤目緩和ランプが点灯します。ストロボ発光の前に赤目緩和ランプを点灯させる(約1秒間)ことで写る人のひとみを小さくし、赤目現象の発生を緩和します。


 赤目緩和機能で撮影するときの注意

1. この機能は、写される人がランプを注視していないと効果がありませんので、写される人にランプを注視するように声をかけてください。
2. 写したい人から2m以内に近づいて撮影してください。
3. 赤目緩和効果の度合には個人差があります。
4. 室内はできるだけ明るくしてください。

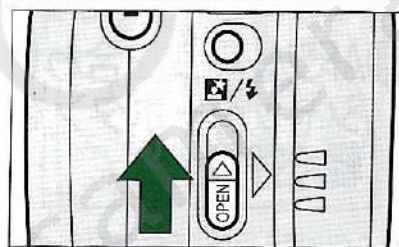
## 撮影したフィルムを取り出す

セットしたフィルムを最後まで撮り終わると自動的にフィルムが巻き戻ります。フィルムを巻き戻している間はレンズがカメラ本体に収納されます。

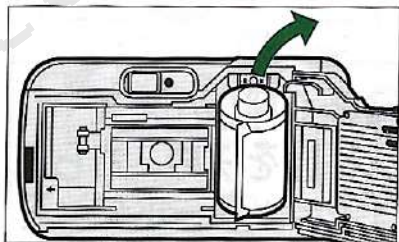


巻き戻し中は、フィルムカウンターの数値が減っていきます。


巻き戻しが終了すると、フィルムカウンターが「S」になります。

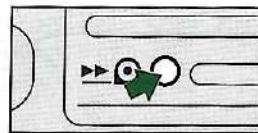

**1** 背ぶた開閉ノブを上げる。

⇒背ぶたが開きます。


**2** フィルムを取り出す。

**フィルムを最後まで撮り  
終わる前に取り出すには**

- ソーラーパネルを開けた状態でフィルム途中巻き戻しボタン  を押します。



- フィルムを巻き戻しているときにソーラーパネルを閉してもフィルムは全て巻き戻されます。

# フォーカスロック撮影

ふだんの撮影では、AiAF機能により、写したいものにピントのあったきれいな写真を撮ることができます。しかし写したいものをファインダーの端に置いて撮影するときはフォーカスロック撮影をします。



① AFフレームを合わせ  
シャッターボタンを  
軽く押す。

→この時緑ランプが点灯しています。



② 軽く押したまま  
構図を決め、さらに  
シャッターボタンを  
押す。



● 構図を決めたあとに撮影距離を変えたときは、ピントが変わりますのでやり直してください。

## AiAFについて

AI=Artificial Intelligence:人工知能、AF=オートフォーカス

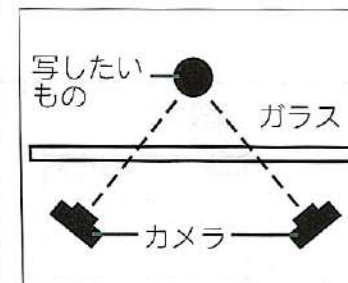
AiAFは、広い測距範囲を持ち、ピントを合わせるところを的確に判断する最新のメカニズムです。これは、数千点の写真を分析し、そのデータとキヤノン独自のノウハウに基づき、開発された機能です。



● 写したいものが中央部分になくても、シャッターボタンを押すだけで写したいものにピントを合わせます。



● 写したいものの手前に障害物があった場合にも的確に写したいものを選びピントを合わせます。



● ガラス越しの撮影にもガラス面にピントを合わせることなく写したいものにピントを合わせます。ガラス越しで撮影するときは、ガラス面から約20cm離れて、斜めの位置から撮影してください。

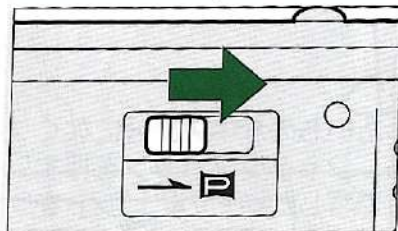
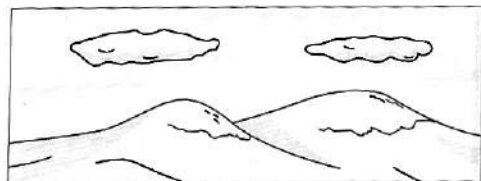
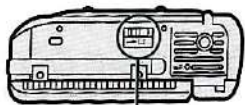


# パノラマモード撮影

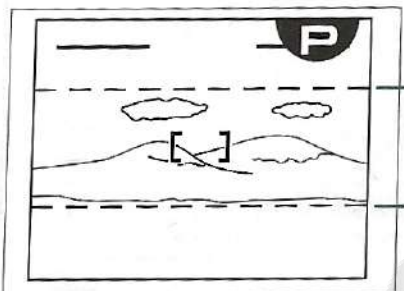


風景や集合写真を撮影するときに効果的です。

底面

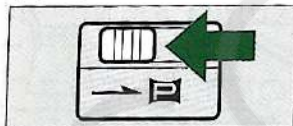


- ①** パノラマ側に  
スライドさせる。  
→ファインダーにパノラマ  
マーク **P** が表示されます。



- ②** パノラマフレームで構図  
を決め、シャッターを  
きる。  
— パノラマフレーム

## 標準モードに戻すとき

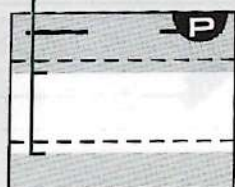


元の位置に戻す。  
→パノラママーク **P** が消えます。



- 1mより近い距離で撮影すると、撮影範囲が全体に下にずれますので構図にご注意ください。

近距離の範囲



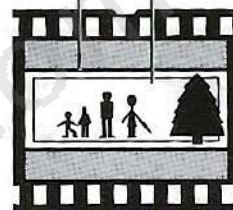
## パノラマプリントについて

ここでいうパノラマとは、カメラ側で標準撮影の1コマ分の上下を遮断して約13×36mmの画像を写し込み、プリント段階で約12×35mmの範囲をパノラマサイズ（89×254mm）に引き伸ばすものです。

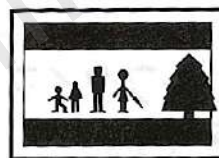
写し込まれる範囲 プリントされる範囲



パノラマモード撮影をするとフィルム上では、上下をカットした形で撮影されます。撮影枚数は変わりません。



パノラマプリントでは、フィルムに写っていてもプリントされない部分があります。



パノラマモードで撮影したフィルムを通常のプリントにすると画面の上下に黒い帯が写し込まれます。

パノラマモード撮影をしたときは添付のパノラマシールを貼って、現像/プリントを依頼すると便利です。

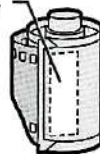


パノラマモード、標準モードの両方で撮影したとき



パノラマモードで撮影したとき

パノラマシール  
貼り付け位置



- DXコードおよびバーコードにかからないように貼ってください。
- パノラマシールが無くなりましたら、裏表紙のキヤノンサービスセンターへお問い合わせください。

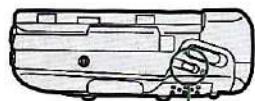


- パノラマモード撮影したときは通常の同時プリントに比べ料金、日数がかかります。

# セルフタイマー撮影

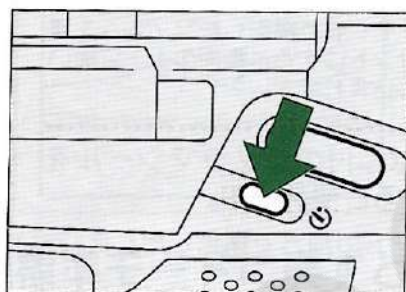


セルフタイマーを使用すると撮影者自身も写真に入ることができます。カメラはしっかりと台の上に置くか、三脚を利用してください。



## ① 構図を決める。

- ファインダーをのぞいて構図を決めます。



## ② セルフタイマーボタンを押す。

- ➡セルフタイマーランプが点滅（1回/秒）し、約10秒後にシャッターが切れます。

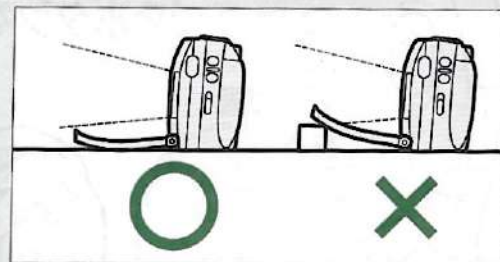
## セルフタイマーを途中でやめたいとき

次のいずれかの操作をしてください。

- セルフタイマーボタンをもう一度押す。
- ソーラーパネルを閉じる。



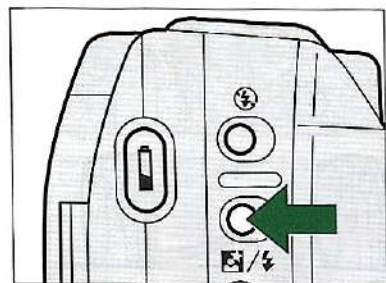
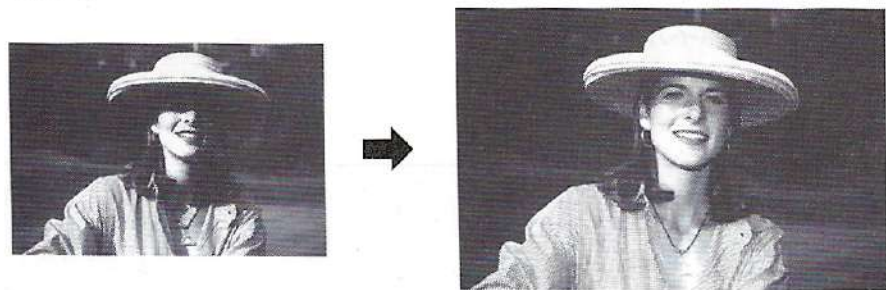
- シャッターが切れる約2秒前になるとランプの点滅がさらに速く（4回/秒）なります。ただし、赤目緩和機能が作動すると、シャッターが切れる約2秒前からランプが点灯します。
- カメラの直前に立ってセルフタイマーボタンを押さないでください。ピントがぼける原因となります。
- 三脚を利用しないでセルフタイマー撮影するときは、平らな場所にカメラを置いてください。



## ストロボON撮影



撮影場所の明るさに関係なくストロボが発光します。日中の逆光時や被写体の影をやわらげるときに、この撮影をします。



ストロボONボタンを押しながらシャッターボタンを押す。



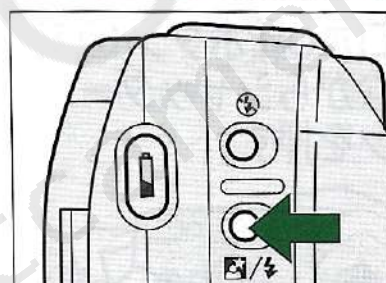
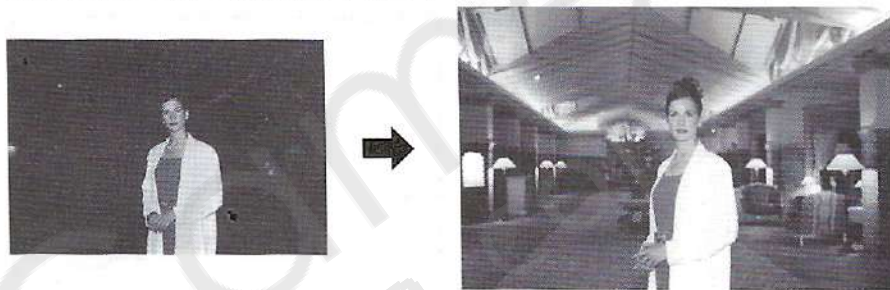
- 暗いところでストロボONボタンを使用して写すと、自動的にスローシンクロ撮影になります。


(→37ページ)

## スローシンクロ撮影

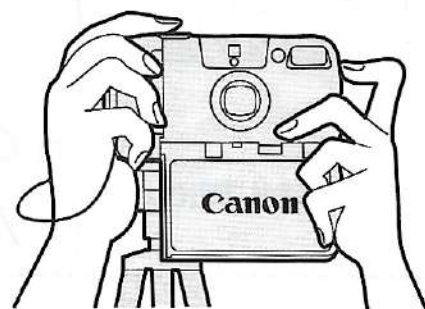


夕暮れや夜景などを背景にして人物を撮影するときにはこのモードにします。このモードでは、赤目緩和ランプを点灯させると赤目現象が出にくくなります。



ストロボONボタンを押しながらシャッターボタンを押す。

→手ぶれ警告が点滅します。

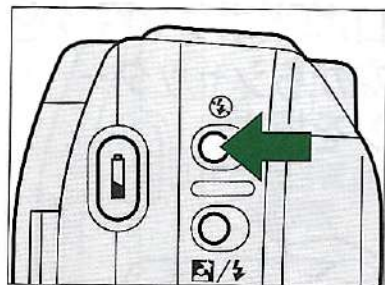
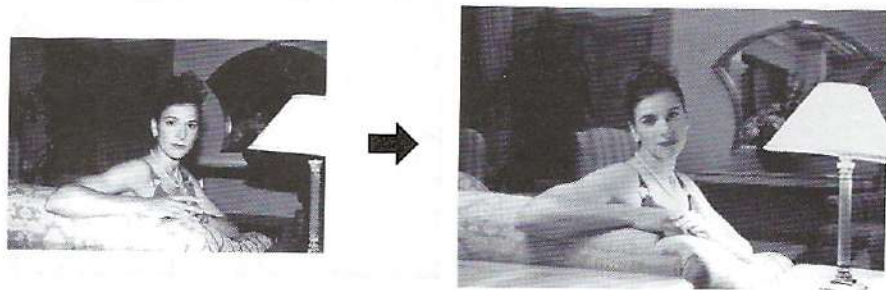



- シャッタースピードが遅くなりますので、カメラをしっかりした台の上に置くか、三脚を利用してください。
- 赤目緩和ランプを点灯させるには、シャッターボタンを軽く押します。約1秒間点灯させてください。

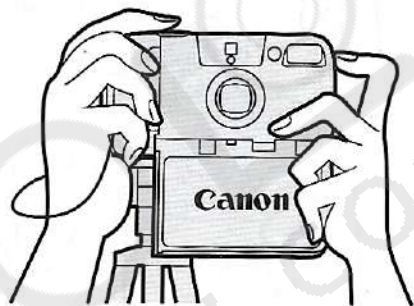
(→28ページ)



撮影場所が暗くても、ストロボが発光しません。夜景の撮影、ストロボ使用が禁止されている場所での撮影、室内照明を利用したの撮影をするときは、このモードにします。



ストロボOFFボタンを押しながらシャッターボタンを押す。



- 暗い場所で、ストロボOFF撮影をすると、シャッター速度が遅くなります。
- 手ぶれ警告で緑ランプが速く点滅（16回/秒）したときは、しっかりした台の上に置くか、三脚を利用してください。

Q1

太陽以外の光源で充電ができますか？

A1

はい、できます。太陽光の他に電球など人工の光でも充電できます。

Q2

フィルム感度 (ISO) とは何ですか？

A2

フィルムが光を感じる度合を数字で表わしたもので、その数字が大きくなるほど敏感に光を感じます。通常の撮影ではISO400のフィルムをお勧めします。

Q3

DXマークのないフィルムは使えますか？

A3

はい、使うことができます。ただし、DXコードのついていないフィルムを入れた場合はISO 25にセットされます。フィルム感度ISO 25またはDXマークのついていないフィルムは、フィルム室に入れ背ぶたを閉じフィルムカウンターに「1」が表示されるまでシャッターボタンを押してください。

Q4

写真に写込まれた日付が読みにくいのですが？

A4

写し込み位置の背景が明るいからです。暗いものがくるようにしてください。また、黄色系のものや白いものが写し込み位置にこないようにしてください。

Q5

近接撮影のとき、緑ランプが遅い点滅をしても、そのまま撮影すると写真はどうなりますか？

A5

緑ランプの遅い点滅は近距離警告です。このまま撮影するとピントが合いません。緑ランプが点滅しない距離まで離れてください。

Q6

フィルムの撮影枚数以上撮れますか？

A6

撮影できます。しかし、最後のコマは現像処理でカットされてしまうことがあります。また、日付や時刻の写し込みがされないことがあります。

## こんなときは


故障かな？と思っても、修理に出す前にもう一度次の表でその部分を確認してください。次の表にしたがってチェックしても症状に変化がなければ修理にお出してください。

症状	原因	解決方法	ページ
充電できない	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 充電をする場所が暗すぎる</li> <li>● 電源遮断スイッチを触った</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 照度表示をチェックして明るい場所で充電する</li> <li>● ソーラパネルを開けて電源を入れる(日付、時刻をセットし直す)</li> </ul>	14 16 4
バッテリー残量表示がすぐ減少する	● 内蔵バッテリーの特性による	● 12ページをご覧ください。	12
緑ランプが点滅、点灯しない	● 内蔵バッテリーが消耗している	● 内蔵バッテリーを充電する	14
シャッターが切れない	● 内蔵バッテリーが消耗している	● 内蔵バッテリーを充電する	14
	● フィルムが正しくセットされていない	● フィルムを正しく入れ直す	24
	● 巻き戻されたフィルムがカメラに入っている	● フィルムを取り出して新しいフィルムを入れる	24
	● ソーラーパネルが開いていない	● ソーラーパネルを十分開ける。	20
写真がボケて写っている	● シャッターを切るときに、AF受光窓、AF投光窓をおおっていた	● 髪や指などでAF受光窓をおおわないように気をつける	23
	● セルフタイマー撮影で、カメラの直前に立ってセルフタイマーボタンを押した	● カメラの直前に立たないように気をつける	34

症状	原因	解決方法	ページ
写真がボケて写っている	● シャッターボタンを押すときにカメラが動いた(手ぶれ)	● シャッターボタンを静かに押す	22
写真全体に霧がかかったようになる	● レンズが汚れている	● レンズを付属のカメラクロス等で拭きとる	3
バッテリー残量や照度が表示されない	● 内蔵バッテリーに残量がない	● 内蔵バッテリーを充電する	14
写真の下にソーラーパネルのかけが入る	● ソーラーパネルの下に物がはさまっているか平らでない	● ソーラーパネルの下を平らにする	20,35
日付/時刻が表示されない	● 内蔵バッテリーが消耗している	● 内蔵バッテリーを充電する	14
日付/時刻がリセットされた	● 電源遮断スイッチを触った	● ソーラパネルを開けて電源を入れる。日付、時刻をセットし直す	4

# 主な仕様

- 形式……………35mmレンズシャッター式AF全自動カメラ  
 画面サイズ……………標準24×36mm パノラマ13×36mm  
 レンズ……………キャノンレンズ 32mmF3.5/ 3群 3枚構成  
 焦点調整……………アクティブオートフォーカス  
 撮影距離……………0.45m～∞  
 シャッター形式……………絞り兼用プログラム式電磁駆動シャッター  
 ファインダー……………実像式ファインダー  
     倍率：0.32倍  
 ファインダー情報……………ファインダー内：撮影範囲枠、近距離撮影枠、オートフォーカスフレーム、パノラマモード  
 ファインダー接眼部……………撮影OKランプ兼近距離警告/手ぶれ警告（緑ランプ）  
 フィルム装填……………自動（自動空送り付き）  
 フィルム巻き上げ……………自動  
 フィルム巻き戻し……………自動、終了後自動停止、途中巻き戻し可能  
 フィルムカウンター……………順算式、フィルムの移動に連動  
     フィルム在否確認：背蓋フィルム確認窓あり  
     セルフタイマー：電子制御式、セルフタイマーボタンにより作動、約10秒後レリーズ、ボディ正面セルフタイマーランプ/赤目緩和ランプ点滅表示
- 測光作動範囲（ISO 100）……………  
     全自動モード：1/60 F3.5～1/250 F22(EV9.5～EV17)  
     ストロボONモード：  
     通常時 1/60 F3.5～1/250 F22 (EV7～EV17以上)  
     スローシンクロ時 2秒F3.5～1/4 F3.5 (EV3～EV7未満)
- ストロボOFFモード：2秒F3.5～1/250 F22 (EV3～EV17)  
 フィルム感度……………ISO 25～3200、DXコードにより1段ごとに自動セット  
 内蔵ストロボ……………低輝度時自動発光式内蔵型ストロボ  
 ストロボ連動範囲……………0.45～3.2m（カラープリント用フィルムISO 100使用時）  
 ストロボ充電時間……………約4秒  
 ストロボ切り換え……………ストロボON/OFFスイッチによる  
     ①全自動モード：低輝度時自動発光  
     ②ストロボOFFモード：発光禁止  
     ③ストロボONモード：常時発光

- 赤目緩和ランプ……………ストロボ撮影前に点灯して赤目を緩和。  
 撮影可能本数……………バッテリー残量表示  の状態から約5本（24枚撮りフィルム/ストロボ50%使用/常温/当社試験条件による）  
 大きさ……………124.1（幅）×67（高さ）×43.5（奥行）mm  
 重量……………265g  
 本体電源……………ソーラーチャージングシステム  
 オートデート機構……………方式：液晶表示式 クォーツデジタル時計内蔵オートカレンダー（西暦2019年まで、うるう年自動修正）  
 時計機構……………常時20℃下で月差±90秒以下  
 写し込みデータ……………①年・月・日②日・月・分③写し込みなし  
     ④月・日・年⑤日・月・年  
 写し込みの色……………オレンジ色  
 デート電源……………本体電源と共用
- ここに記載のデータはすべて当社試験基準によります。  
 ●都合により製品の使用および外観の一部を予告なく変更することがあります。